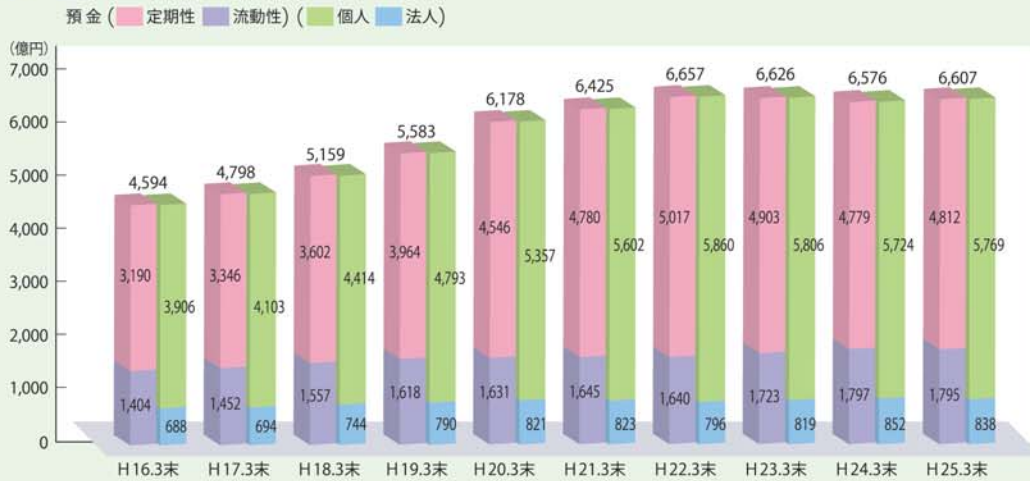


## ● 預 金

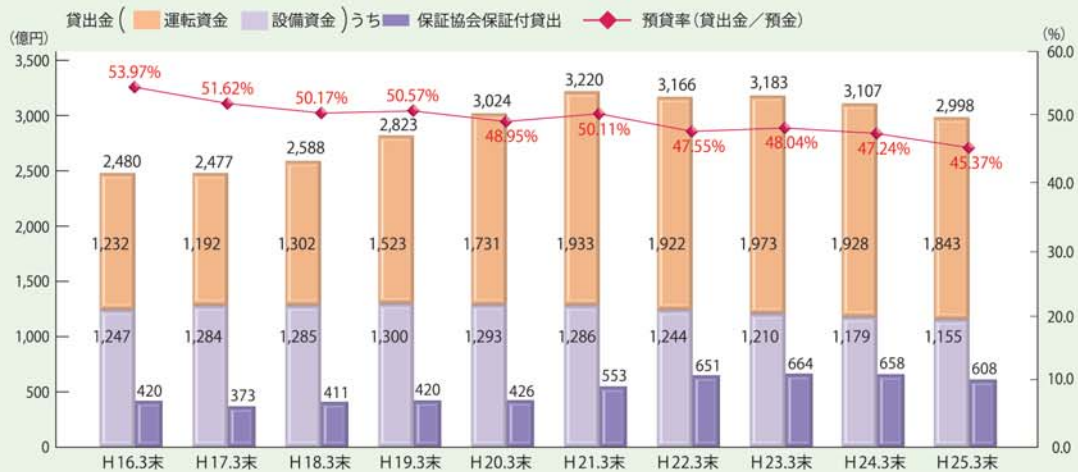


預金は、平成22年3月末以降減少していましたが、宇治川支店の新築建替、西宮今津支店新店舗開設を記念して定期預金を発売いたしましたところ、多くのお客様にご利用いただきました。その結果、平成25年3月末は前年度を上回ることができました。

引き続き流動性預金、法人預金の増強に注視し、構成比率を上げていくことが課題であります。

平成25年3月末の預金残高は、全国270信用金庫中第50位、兵庫県下11信用金庫中第4位となっております。

## ● 貸出金と預貸率

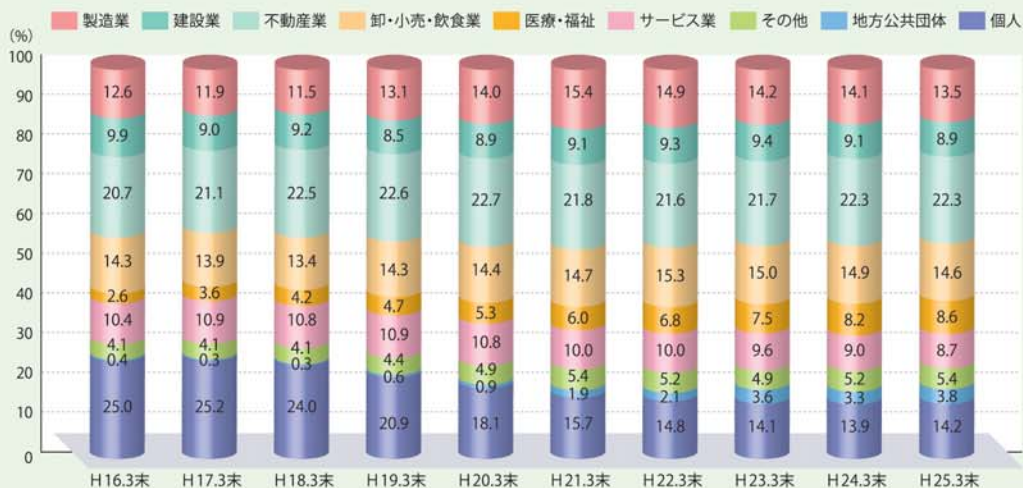


貸出金は、平成21年3月末以降減少傾向にあり、また減少額が大きくなっています。

しかし、グラフからは読み取ることができませんが、平成24年度の後半はほぼ横這いとなり減少傾向に底を打ちかけていると考えています。

地域の皆様のお役に立てるよう、貸出金の営業活動に一層努めてまいります。

## ● 貸出金の業種別構成比の推移



貸出金の業種別構成比は、製造業が資金需要低調から減少傾向にありますが、医療・福祉（介護も含みます。）が一貫して上昇しております。個人は住宅ローンの減少から低下傾向にありましたが、個人消費ローンの推進に努めたことから上昇しております。

## ●業務収益、業務粗利益(うち資金利益)



一般企業の売上高に当たる業務収益(貸出金利息、有価証券・預け金等運用収入、役務取引収入など)は、前期末比約20億円の減収になりました。これは、有価証券売却益を対前期比11億円減収させたことと、貸出金と有価証券の残高が減少したうえ利回りも低下したことによります。

業務粗利益(業務収益-預金利息等原価)は、貸出金利息や有価証券利息配当金の減少により対前期比約8億円の減益となりました。

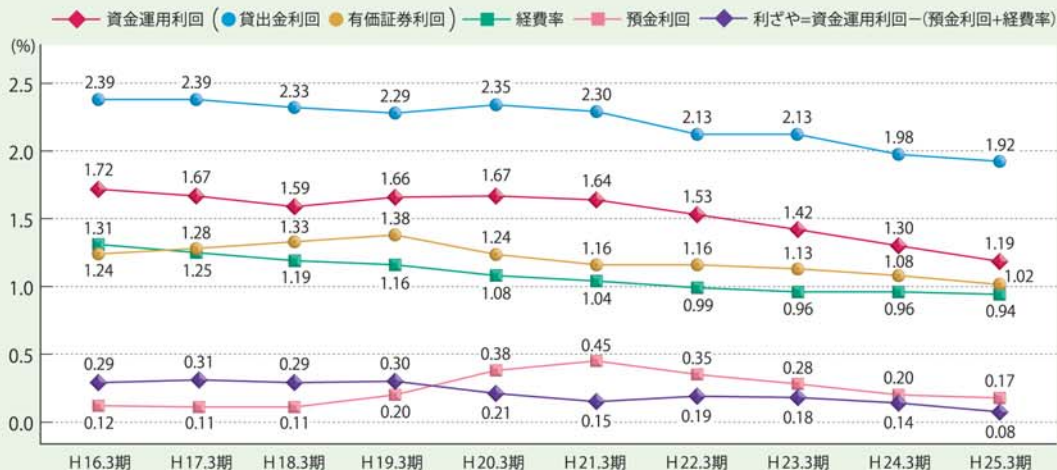
## ●業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益-経費等)、当期利益



業務粗利益が大きく減益となりましたが、経費の節減に努めた結果、業務純益は前期末比3億円の減益にとどまりました。

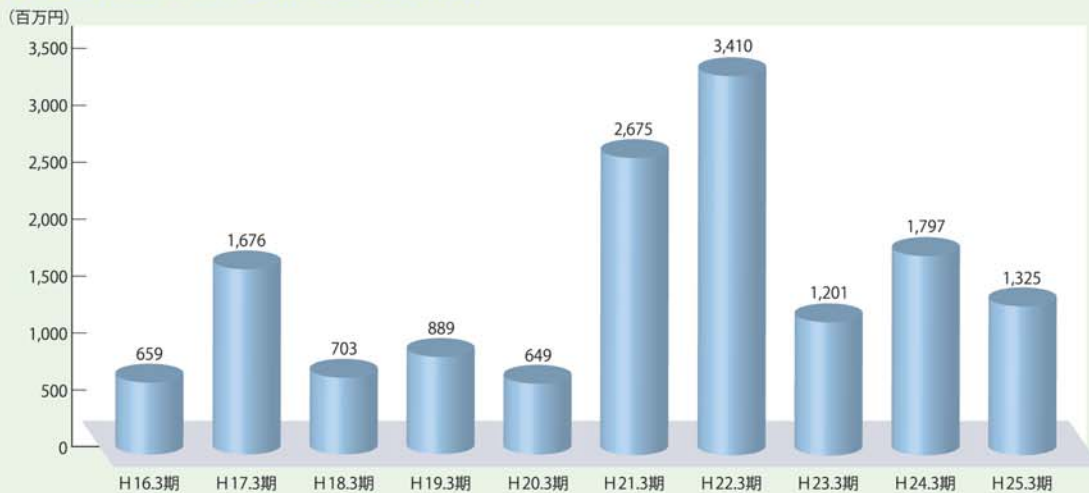
当期純利益は、477百万円で前期末比約150百万円の増益となりました。これは不良債権処理費用が前期と比較して少なかったことによります。

## ●資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率



市場金利の低下基調が続いており、貸出金や有価証券の利回りが一段と低下して、預金利回や経費率の低下幅を上回ったことから利鞘は一層縮小しました。

## ●貸出金にかかる不良債権処理費用等

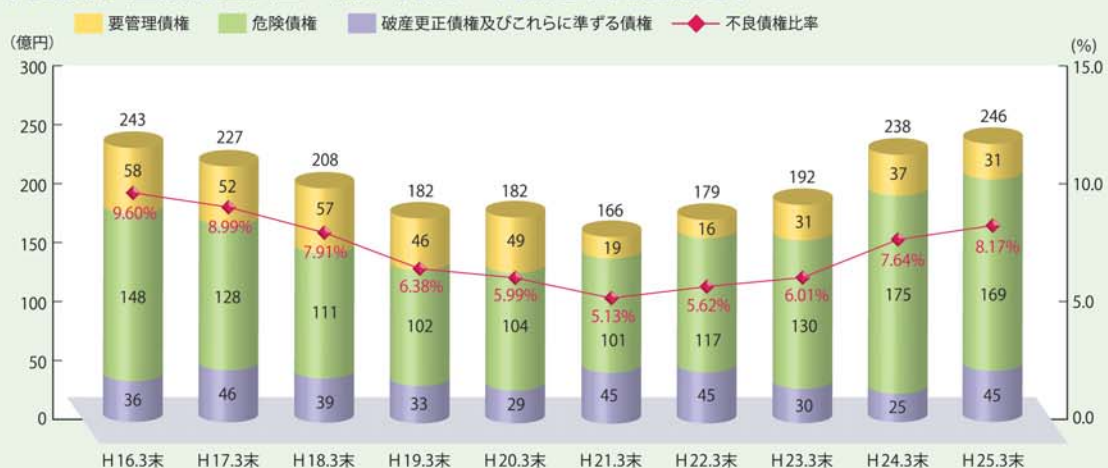


貸出金にかかる不良債権処理費用等とは、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計です。すなわち、将来の発生を見込んで現時点で算定した損失見込額及び回収不能となって確定した損失額の合計額です。

平成25年3月期は、前年度と比較して減少したものの、この5年間をしてみると不良債権処理費用等は高い水準となっています。不良債権を減少させるために、融資審査、経営改善支援などの強化に全力を挙げてまいります。

また、貸出債権の不良化を防がなければならないのは当然のことですが、同時に、将来のために引当を十分に行うことも重要です。

## ●不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率



不良債権は、要管理債権、危険債権、及び破産更生等債権に分類されます。破産更生等債権は、取引先の経営破綻によるほか積極的な貸倒引当を行った結果増加しました。

要管理債権と危険債権の合計額は、前年度と比較して減少しました。

不良債権比率は貸出金総額が減少したことも影響し悪化しました。

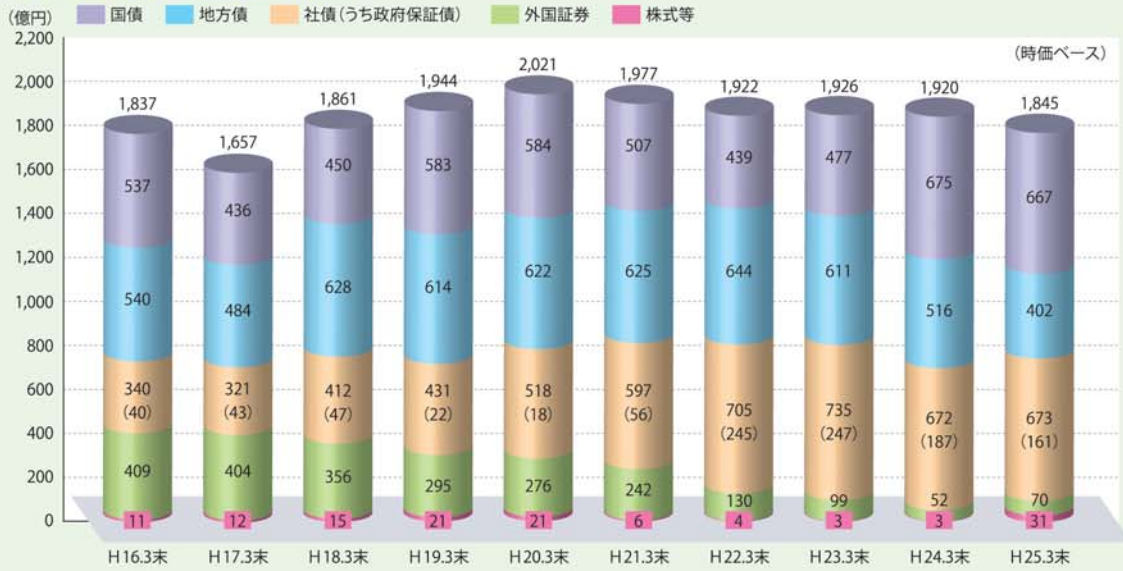
## ●不良債権(要管理債権を除く)の保全状況



平成25年3月末現在の不良債権(要管理債権を除く)は214億円ありますが、その保全状況は上の通りです。貸倒引当金(46億円は会計上損失処理済みです。)や担保・保証で保全されている額が185億円です。

残り29億円は危険債権に係るもので、これまでの実績から見て回収可能と判断される額です。

### ●有価証券の種類別保有状況



平成25年3月末現在、有価証券の残高は前年度末比△75億円と大幅に減少しています。これは市場金利が大幅に低下したため、リスク管理上購入を控えたことによるものです。利息・配当金収入の減少分等は有価証券の売却益でカバーしています。

また、金利リスク以外のリスクに分散投資する目的で、株式、投資信託、外国証券への投資をやや増やしていますが、有価証券全体では国債、地方債、政府保証債でその3分の2以上を占め、安全を配慮した運用を行っています。株式は配当率及び格付が高い優良な銘柄に分散投資しています。

### ●有価証券の評価損益の推移



平成25年3月末現在、有価証券の評価益(市場価格が簿価を上回っているもの)合計は53億円、評価損(市場価格が簿価を下回っているもの)合計は1億円です。有価証券全体で差し引き51億円の評価益となっています。

### ●有価証券の種類別の評価損益



有価証券の種類別に評価損益を示したものです。ほとんどの有価証券で評価益が出ています。国債、地方債、株式等では評価損はほとんどありません。

### ●債券(償還までの期間別に見た残高)、平成25年3月末現在



有価証券のうち株式、投資信託を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したものです。期間10年以内を基本として各期間毎に平準化して保有するようにはしておりますが、市場金利の低下基調を受けて期間15年を限度に超長期債券を一部組み入れています。

## ●自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)



自己資本比率は前年度より0.07ポイント低下して、11.05%となりました。  
 当金庫の自己資本比率は国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えております。

これからも、事業活動を通じて得る収益による資本の積み上げ等により自己資本の充実を図ってまいります。  
 なお、自己資本は、出資金、利益剰余金からなる基本的項目(Tier1)と一般貸倒引当金からなる補完的項目(Tier2)で構成されています。

## ●会員数



## ●出資金額



### ● 役職員数と店舗数



### ● 役職員1人当りの預金と貸出金



## 信用金庫業界の動き

### ● 全国の信用金庫役職員数と金庫数



### ● 全国における信用金庫の預金と貸出金

